

山梨県東八代郡豊富村

平成14・15年度
村内遺跡発掘調査報告書

2004

豊富村教育委員会

山梨県東八代郡豊富村

平成14・15年度
村内遺跡発掘調査報告書

2004

豊富村教育委員会

序

豊富村は、甲府盆地の南部に位置し、北西を流れる笛吹川と東南に連なる御坂山塊の間に開けた山川に開まれた自然にあふれる村です。

また村の大半を占める曾根丘陵地帯には、古代遺跡が多数点在していますし、古代・中世の仏像や近世の信仰の証しである石造物をはじめ、天然記念物の樹木等、住人によって現在まで大切に守られてきた遺跡や文化財があり、まさに文化財の宝庫といってよいでしょう。

このような土地柄であります、近年、各種公共事業や民間の開発も盛んになってきました。それに伴い、遺跡調査の機会も年ごとに増してきています。

本報告書は、平成14年度及び15年度に豊富村内で実施された各種開発に伴う埋蔵文化財有無の確認調査をまとめたものです。

前田遺跡では、古墳の石室といった貴重な発見もあり、古墳時代の豊富村の歴史を語る上で好資料となることでしょう。

また、高部宇山平遺跡では方形周溝墓と思われる溝の中から、大小1個ずつの壺が発見されています。

このようにいにしえの豊富村を垣間見る資料が調査の過程で見つかっております。

なお、今回の調査にあたり、ご指導・ご協力をいただきました地元地権者の方々をはじめ、関係各位に厚く感謝申し上げます。

本報告書が今後、有意義に活用されることを希望いたします。

2004年8月31日

豊富村教育委員会

教育長 萩原保正

例　　言

1. 本書は平成14・15年度に山梨県東八代郡豊富村内で発掘された遺跡調査の報告書である。
2. 発掘調査及び出土品の整理は、豊富村教育委員会が実施した。
3. 本書における出土品及び記録図面・写真は豊富村教育委員会が保管している。
4. 本報告書の執筆・編集・写真撮影は岡野が行った。
5. 本調査にあたり、山梨県教育庁学術文化財課及び豊富村各区の住民の皆様、地権者の皆様のご指導、ご理解をいただきながら調査を進めることができた。心から謝意を表する次第である。
6. 発掘調査・出土品の整理及び報告書の作成については、次の方からご教示・ご協力を賜った。記して謝意を表する次第である。(敬称略)

新津健・出月洋文・吉岡弘樹・保坂和博(山梨県教育庁学術文化財課)、中山誠二(山梨県教育庁学術文化財課博物館建設室)、末木健・八巻与志夫・山本茂樹・今福利恵(山梨県埋蔵文化財センター)、小野正文(山梨県立考古博物館)、林部光(中道町教育委員会)、野崎進(境川村教育委員会)、伊藤修二(八代町教育委員会)、望月和幸(御坂町教育委員会)、小瀬忠秋・阿部勲(石和町教育委員会)、瀬田正明・望月秀明(一宮町教育委員会)、宮澤公雄・柳原功一(帝京大学山梨文化財研究所)

調　　査　組　織

調査主体	豊富村教育委員会
調査担当者	岡野秀典(豊富村教育委員会文化財担当)
事務局	萩原保正(教育長)・相原勝仁(教育課長・14年度)・長田茂夫(教育課長・15年度)・中込聰(教育係長・14年度)・小沢誠(教育係長・15年度)・大久保賀子・岩間賢・岩下昭吾・大村美香(平成14年度)・葉袋寿子(平成15年度)
調査・整理	河野紀久代・桜井幸子・塚田よ志江・中沢浦子・中橋紀男・村松みどり・山口満智子
参加者	

目　　次

序

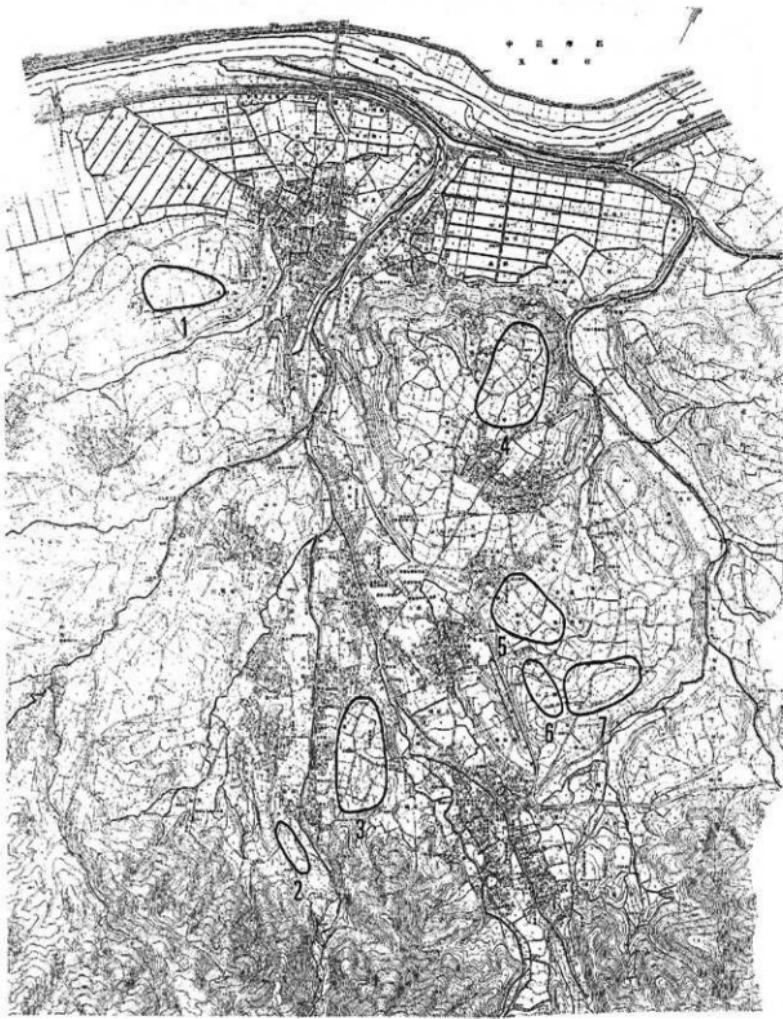
例言・調査組織

目次

第1章 平成14・15年度の調査概要	1	第2章 前田遺跡の調査	3
第3章 高部字山平遺跡の調査	10	第4章 駒平遺跡の調査	14
第5章 横畠遺跡の調査	16	第6章 前田遺跡の調査	21
第7章 熊野原遺跡の調査	26	第8章 原遺跡・東原遺跡の調査	30
写真図版			

第1章 平成14・15年度の調査概要

No.	取扱済名 ふりがな	所 在 地	21 - 17		調査期間 (年)	調査原因 調査事業	主な時代	主な遺構	主な遺物
			市町村 荒幡番号	市町村 荒幡番号					
1 前 田 まえだ	人跡1025、1027	山梨県東八代郡登富村 19328	県 20020	2003.3.10	140.2	農業基盤 整備事業	縄文・古墳	縄文土器・石器・ 土師器・黒曜石	
2 高部宇山平	たかべうやまたいら	高部1536	県 2009	2003.7.17	14.0	個人住宅	弥生	方形周溝墓	弥生土器
3 駒 平 こまだいら		木原25-1	県 2001	2003.7.22	4.5	個人住宅	縄文	なし	縄文土器
4 横 烟 よこばたけ		大鳥居3560-4	県 2021	2003.8.20	12.0	個人住宅	縄文・古墳 ・中近世	縄文土器・土師器 ・泡水通穴	
5 前 田 まえだ		大鳥居1025地	県 2020	2003.11.27	141.0	農業基盤 整備事業	古墳周溝	土師器・須恵器・ 陶磁器・黒曜石	
6 鹿野原 くまのはら		浅利2531、2696 2700、2701	県 2011	2004.2.16	164.0	農業基盤 整備事業	弥生・古墳	縄文・弥生 ・古墳	
7 駒 東原 はら・ひがしほら		岡原990-1他・木原271	県 2024	2004.2.25	174.0	公園造成	中近世	縄文土器・陶磁器	
			県 2025	2004.2.26					
			村 16						



- | | | | |
|---------|--------|--------|-----------|
| 1 熊野原遺跡 | 2 前田遺跡 | 3 横畠遺跡 | 4 高部宇山平遺跡 |
| 5 駒平遺跡 | 6 原遺跡 | 7 東原遺跡 | |

第1図 調査遺跡分布図

第2章 前田遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村大鳥居字前田に所在し、甲府盆地の南側に連なる御坂山塊から舌状に張り出した曾根丘陵の一帯である山裾の台地上に立地する。

当遺跡内で中山間地域整備事業による圃場整備事業が計画され、試掘及び一部調査区を拡張した調査を実施した。調査面積は234m²である。

平成15年3月10日 発掘調査を開始

平成15年3月20日 発掘調査を終了

平成15年3月25日 南甲府警察署に遺失物発見届を提出

平成15年3月29日 山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に応じて2×2~16mの試掘坑やトレチを12か所設定し、それぞれに1~12区と名づけて掘り下げる。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅲ層までの深さは20~50cm前後である。

なお、第1~3区付近では、第Ⅲ層のソフトロームは見られなくなり、耕作により削平を受けたものと思われ、第Ⅱ層の下部に第Ⅳないし第Ⅴ層が表面に見えている。

第Ⅰ層 深褐色土（耕作土） 第Ⅱ層 深褐色土（V層の土がブロック状に混入）

第Ⅲ層 黄褐色ローム 第Ⅳ層 暗黄褐色ローム

第Ⅴ層 明黄色ローム（いわゆる鹿沼土）



第2図 調査区位置図 (1/2,500)

第3節 検出した遺構と遺物

(1) 第1区の遺構と遺物

1号土坑

第1区の南側で確認され、東側が調査区外であったために70cm拡張して土坑の全面を検出した。平面プランは、楕円形であり、東西幅146cm、南北幅120cm、深さ30cmであり、床面は平坦である。覆土は黒褐色土、黄褐色土、褐色土の3層である。出土遺物は、縄文時代早期の土器が数点出土した。また、長さ15cm前後の碟が2点ほど見つかっている。

1は貝殻腹線文を施したいわゆる田戸上層式、2は沈線文、3は刺突を1列に配す。

(2) 第2・9区の遺構と遺物

4は第2区のI層より出土したもので、古墳時代前期の高坏接合部である。接合部径3.2cm、色調は橙褐色である。外面はハケメ、坏部内面はミガキ、脚部内面はナデ調整である。5は第9トレンチのI層より出土したもので、縄文時代早期の土器破片で、波状の押型文を施す。

(3) 第12区の遺構と遺物

1号石室

第12区内で確認されたものである。はじめ、2×2mの試掘坑を設定して掘り下げ、遺構らしきものが確認されたので、遺構プラン全面を検出するように順次拡張していき、最終的に図のような調査区プランとなった。この調査区を設定した地は、古墳の墳丘らしき特別な高まりは見られず、偶然に設定したものである。

1号石室は、石室の主軸方位はN-47-Eで、床面海拔高度は350.4m。西側に開口するが、これは当地が西側に傾斜し下がっていくという地形に影響されたものと思われる。奥壁部と側壁基底部の一部の碟が残るのみで、耕作のために削平を受けたらしく、石室を構成する碟は、ほとんど消失している。そのために石室構築当初、何段の石積みが構築されていたかは不明である。したがって、本石室が無袖か片袖かといった形態も不明である。しかしながら石室の掘り方の規模、碟の配列具合から推察すると、無袖式石室であったのではないかと考える。

掘り方は、東壁より290cmのところで削平を受けている感じを受けたが、ちょうどそのあたりで、北西コーナーらしき曲がりを確認できたので、掘り方の全長としては290cmとしてよいと思われる。幅は170cmである。深さは10~15cmほどである。床面には石は敷かれていなかつた。

石室の碟は奥壁に4つ、西側の側壁に2つ残り、東側の側壁には残存していなかった。碟の大きさは、長さ25~35cm、幅15~20cm程度で根石としては小さい。

副葬品としては、掘り方中央部の床面直上より5つの管玉が出土した。6は碧玉製で、長さ2.4cm、直径0.7cm、孔径0.1~0.4cm。色調は濃緑色。7は碧玉製で、長さ2.7cm、直径0.55cm、孔径0.3cm。色調は薄れた濃緑色。8は碧玉製で、長さ2.3cm、直径0.7cm、孔径0.1~0.2cm。色

調は濃緑色。9は碧玉製で、長さ1.3cm、直径0.9cm、孔径0.15cm。色調は濃緑色。片方の面に剥離痕が残り、未研磨である。10は緑色凝灰岩製で、長さ2.2cm、直径0.5cm、孔径0.1～0.3cm。色調は灰緑色。

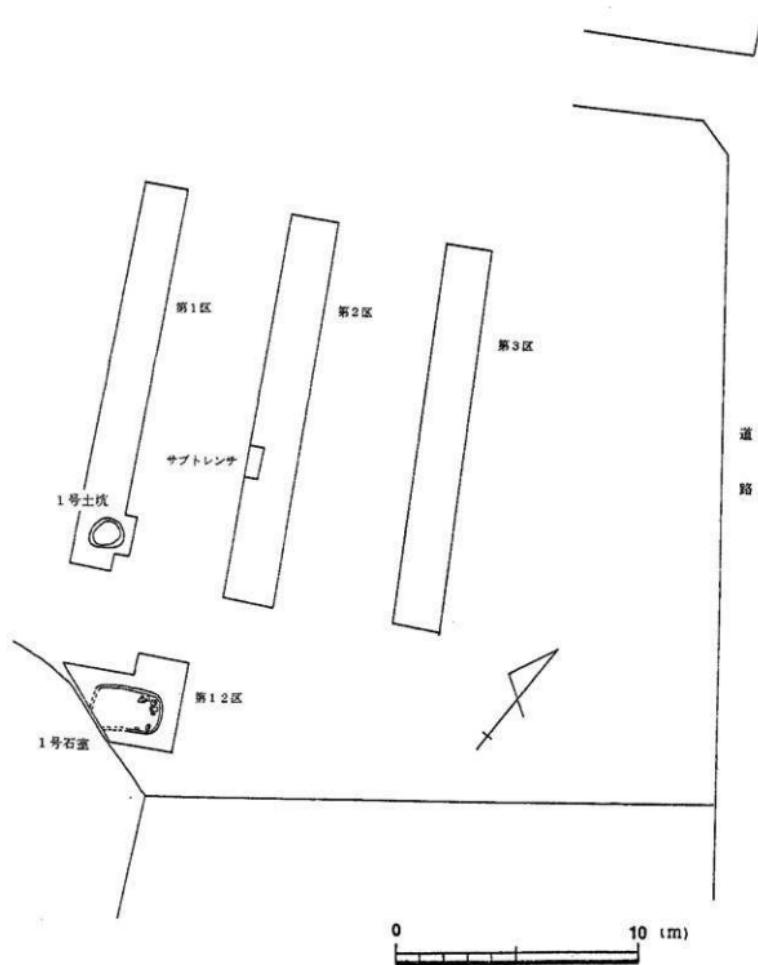
また、石室掘り方覆土内より縄文時代の遺物が混入しており、11は縄文時代早期の土器で口縁部破片である。櫛歯状工具による条線をたて及び横方向に引き、また、刺突文も見られる。12は黒曜石製の石鏃で、長さ1.1cm、幅1.0cm、厚さ0.3cmである。

第4節 まとめ

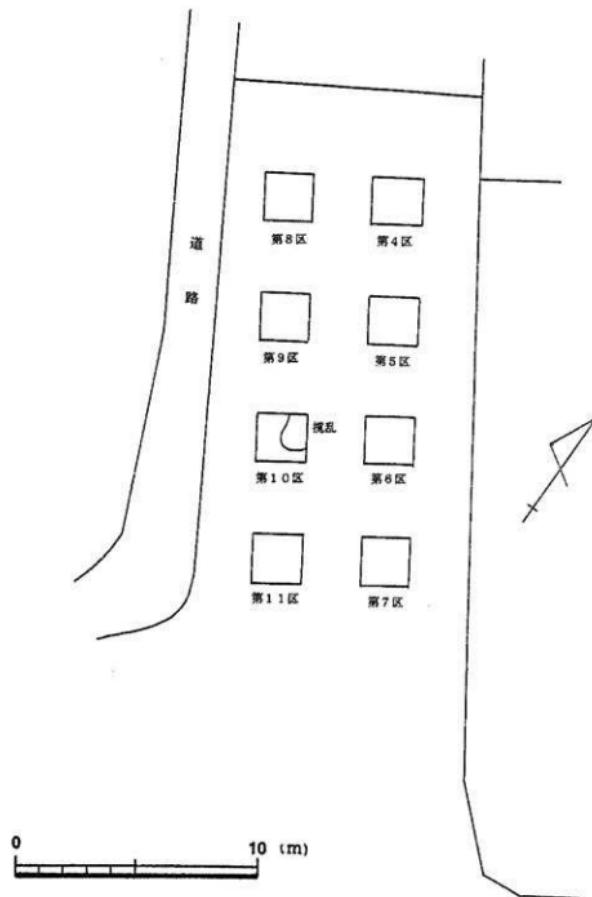
調査の結果、縄文時代早期の土坑1基、古墳の石室1基が発見された。この地域は、これまで発掘調査を行う機会がなく、包蔵地ではあったものの詳しいデータがなく、さほど注目されるような地域ではなかった。しかし、今回、調査を実施した結果、貝殻腹縁文が施されたいわゆる田戸上層式や縄文時代早期の土器が遺構に伴って出土したことは大きな成果といえるだろう。また、押型文土器も出土するなど、これまで豊富村でほとんど見つかることがなかった縄文時代早期の土器がこの遺跡で見つかったことは、この時期にこのあたりで人々が生活していた証であり、豊富村の歴史を解明する上で貴重な発見といえるだろう。

また、古墳の石室が山裾に近いこの遺跡から発見されたことも驚きであった。豊富村内では、これまで宇山平や三星院裏山の上野原台地など4つの限られた地域で古墳群が形成されていることがわかっており、その他古墳と思われる小丘が散発的に築かれた程度である。確かに、前田遺跡より北東に約450m下っていった台地に鎮座する御崎社の拝殿の小丘は、おみさきさん古墳という古墳とされており、その古墳を取り囲む地域は横畠遺跡であり、古墳時代前・後期の遺物もいくつか出土している。したがって、よくよく考えてみると、前田遺跡を取り囲むこの一帯の歴史的環境からすれば、今回発見された古墳の存在は不思議ではなく、むしろ、当然あった集落の首長の墓城の一部を発見したということになる。したがって今後の課題は、居住域の発見ということになろう。

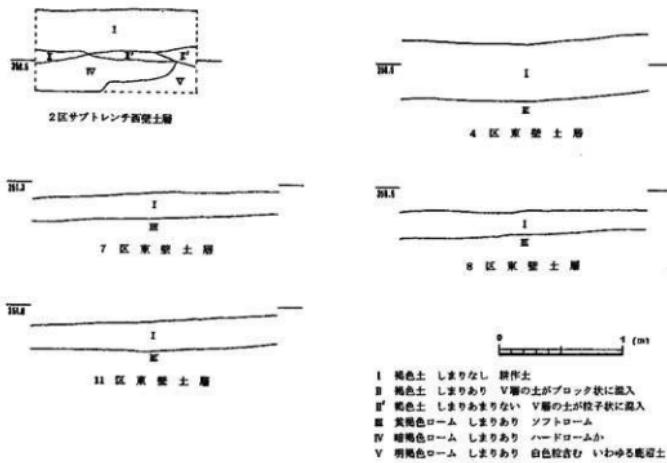
古墳の年代は、石室内から管玉5点が出土した以外、土器など年代を明らかにするような遺物は出土しなかったので、不明といわざるを得ないが、石室が無袖で、規模も縮小化の様相が窺われるなどから考慮すると、7世紀代の可能性が高いのではないかと想像されるが、あくまで推測の域を出ないことを断っておく。



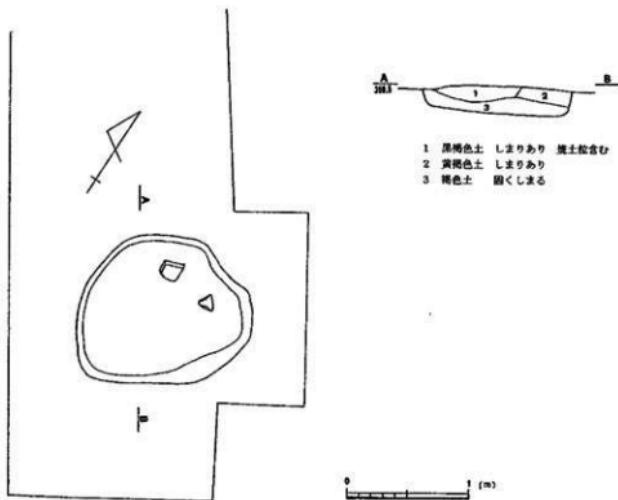
第3図 調査区全体図(1)



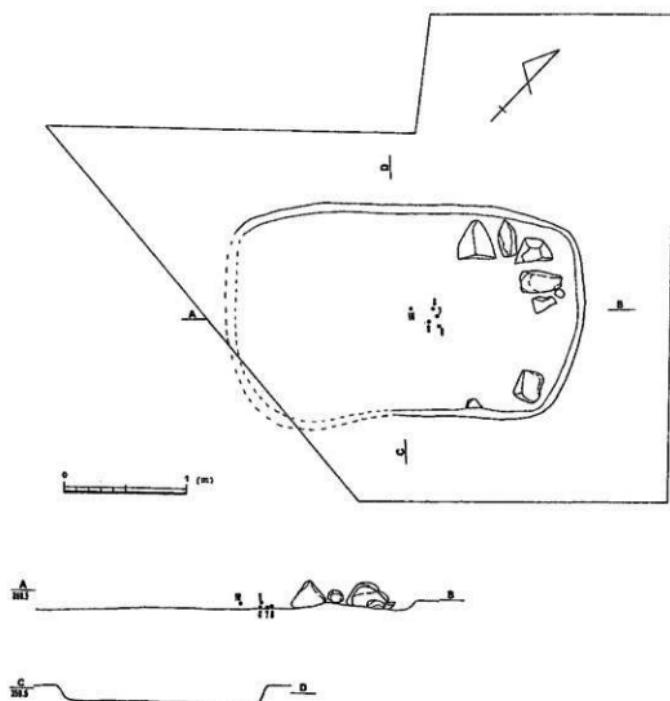
第4図 調査区全体図(2)



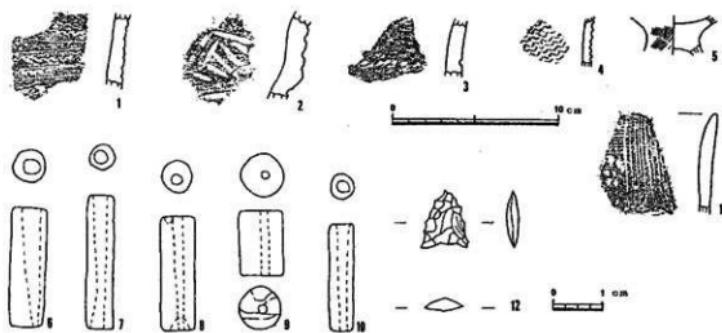
第5図 土層図



第6図 1号土坑



第7図 1号石室



第8図 出土遺物

第3章 高部字山平遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村高部字伊勢塚に所在し、甲府盆地の南側に連なる御坂山塊から張り出した曾根丘陵の一角である字山平と呼ばれる台地上の北端に立地する。

当遺跡内で個人住宅の建設が予定され、試掘及び一部調査区を拡張した調査を実施した。調査面積は14m²である。

平成15年7月17日 発掘調査を開始

平成15年7月18日 発掘調査を終了

平成15年7月24日 南甲府警察署に遺失物発見届を提出

平成15年7月24日 山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に応じて2×2mの試掘坑を2か所設定し、それぞれに1~2区と名づけて掘り下げた。第2区で遺構が発見されたので、調査区を拡張して遺構の検出に務めた。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅱ層までの深さは30cm前後である。

第I層 棕褐色土（耕作土）

第II層 明褐色ローム



第9図 調査区位置図 (1/5,000)

第3節 検出した遺構と遺物

(1) 第2区の遺構と遺物

1号溝

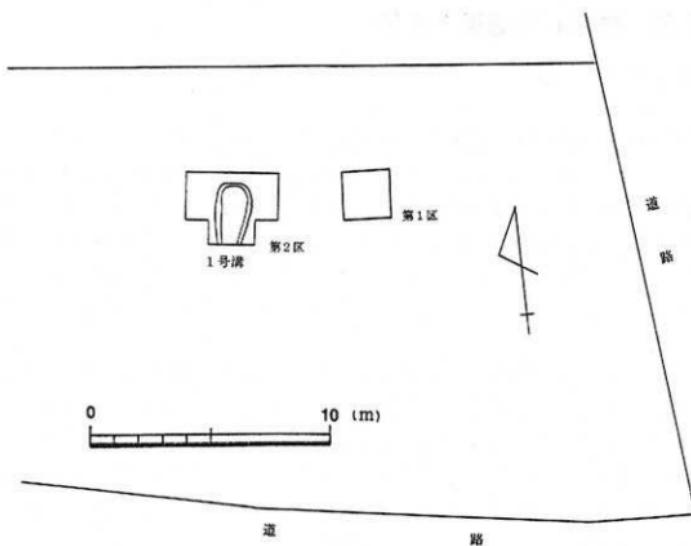
第2区の西側で確認され、西側を2m、南側を1m拡張して遺構の検出に勤め、その結果、南北方向に延びる溝の一部であることがわかった。長さ260cmで西側はさらに調査区外に延びる。北側は調査区内で止まる。最大幅135cm、深さ45cmであり、床面はほぼ平坦である。覆土は黒褐色土、暗褐色土の2層である。出土遺物は、大小各1点、計2点の弥生時代後期の壺が並ぶかのように横倒しされて出土した。大きい方が北側、小さいほうが南側に位置する。いずれも頸部より下は完形であるが、口縁部が欠損している。内面は頸部の幅が狭く、観察できない。

1は底径7.0cm、残存高29.8cm、胴部最大幅は25.4cm。色調は薄褐色、胎土は密である。口縁部は欠損している。外面は頸部に縄文原体を転がし、縄文文様で全周する。胴部はヘラミガキ調整で、胴部の最大幅付近に煤が全周して付着している。

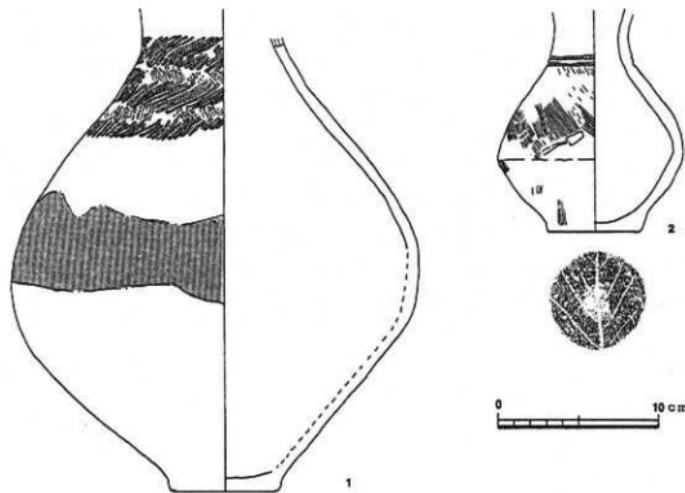
2は底径6.0cm、残存高13.8cm、胴部最大幅は11.6cm。色調は赤褐色、胎土は砂粒を含む。口縁部は欠損している。外面は頸部に2本の押し引きされた平行沈線を巡らし、胴部はハケメ調整で、底部は木葉痕が残る。内面は頸部の幅が狭く、観察できない。

第4節まとめ

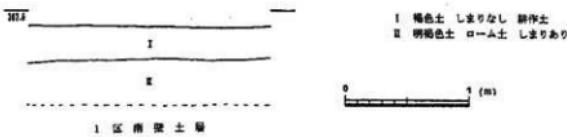
調査の結果、弥生時代後期の溝1条が発見された。大小2個の弥生時代後期の口縁部を欠損した壺が出土した様相からこの溝は、方形周溝墓の一部と考えられる。高部宇山平遺跡では、これまでの数回にわたって行われてきた調査の中で、時期は下るが、古墳時代前期の方形周溝墓群が今回の調査地の道を挟んだ南西側の畠地より検出され、また、調査地の隣接する西側は、伊勢塚古墳と呼ばれる円墳が現存しているなど、調査地付近は、墓域の性格が強い感がある。そして今回の弥生時代にさかのほる方形周溝墓の発見は、高部宇山平遺跡の弥生～古墳時代の様相を明らかにしていく上で貴重なデータとなり、この時期の宇山平一帯を治める首長の存在を窺わせる発見である。おそらく、そうして代々の首長が力をつけていった結果、5世紀後半になると王塚古墳を築くまでの強大な首長の輩出を現実化していくのかもしれない。



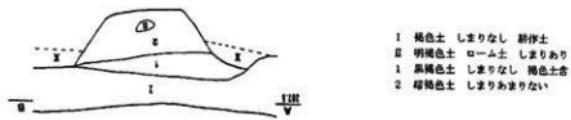
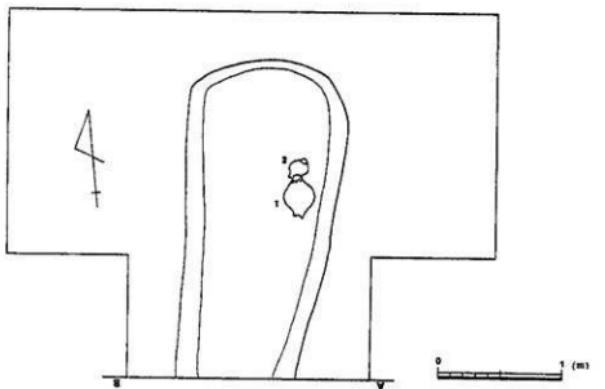
第10図 調査区全体図



第11図 出土土器



第12図 土層図



第13図 1号溝

第4章 駒平遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村木原字駒平に所在し、甲府盆地の南側に連なる御坂山塊から張り出した曾根丘陵の一角である駒平と呼ばれる台地上に立地する。

当遺跡内で個人住宅の建設が予定され、試掘調査を実施した。調査面積は4.5m²である。

平成15年7月22日 発掘調査を開始

平成15年7月22日 発掘調査を終了

平成15年7月24日 南甲府警察署に遺失物発見届を提出

平成15年7月24日 山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に応じて1.5×1.5mの試掘坑を2か所設定し、それぞれに1~2区と名づけて掘り下げた。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅲ層までの深さは20cm前後である。

第Ⅰ層 褐色土（盛土）

第Ⅱ層 褐色土（耕作土）

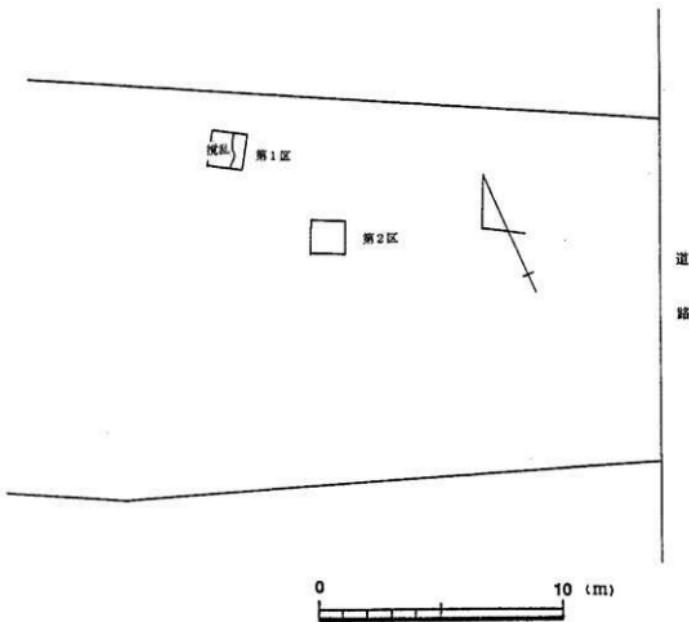
第Ⅲ層 黄褐色ローム

第3節 まとめ

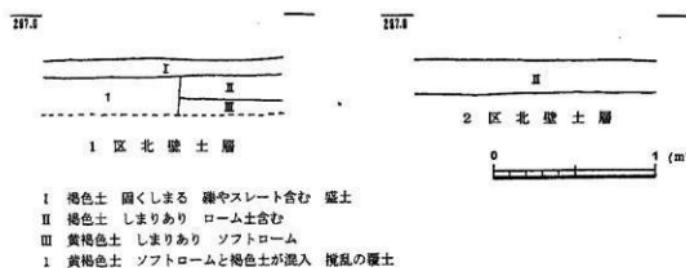
調査の結果、縄文土器片が数点出土したが、遺構は出土しなかった。



第14図 調査区位置図 (1/5,000)



第15図 調査区全体図



第16図 土層図

第5章 横畠遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村大鳥居字横畠に所在し、甲府盆地の南側に連なる御坂山塊から舌状に張り出した曾根丘陵の台地上に立地する。

当遺跡内で個人住宅の建設が予定され、試掘調査を実施した。調査面積は12m²である。

平成15年8月20日 発掘調査を開始

平成15年8月20日 発掘調査を終了

平成15年8月21日 南甲府警察署に遺失物発見届を提出

平成15年8月28日 山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に応じて2×2mの試掘坑を3か所設定し、それぞれに1~3区と名づけて掘り下げた。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅲ層までの深さは40~50cm前後である。

第Ⅰ層 暗褐色土（耕作土）

第Ⅱ層 黄褐色ローム

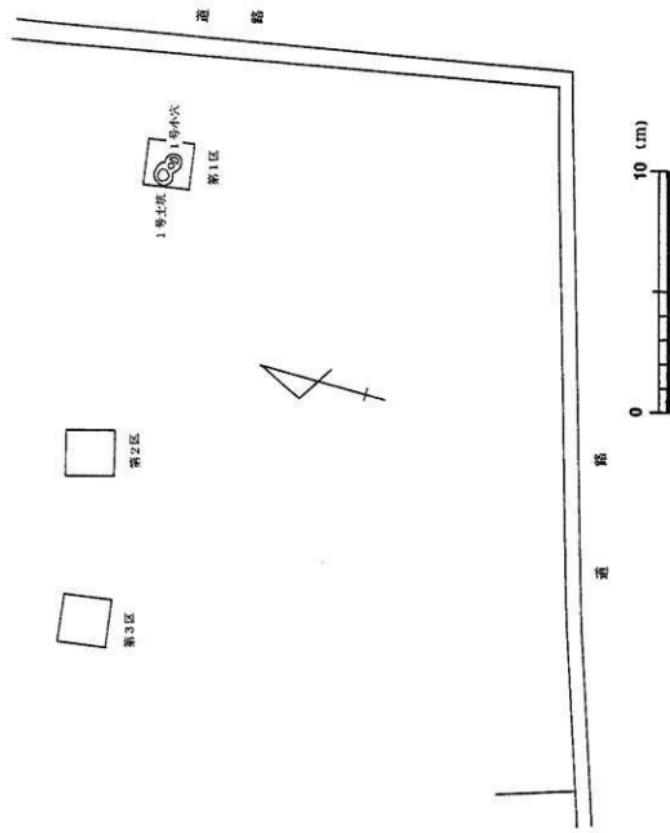


第17図 調査区位置図 (1/5,000)

第3節 検出した遺構と遺物

(1) 第1区の遺構と遺物

1号土坑



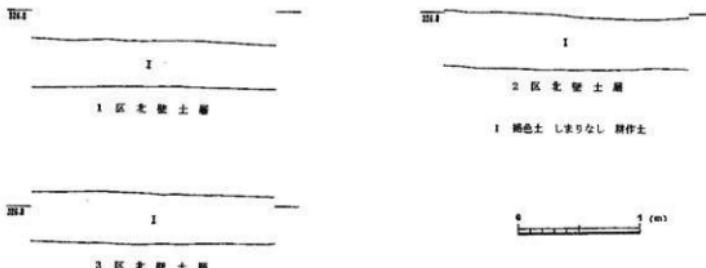
第18図 調査区全体図

第1区の西側で確認され、東側は1号ピットに切られている。平面プランは楕円形を呈する。東西幅90cm、南北幅70cm、深さ20cmを測り、床面はほぼ平坦である。覆土は褐色土の1層である。

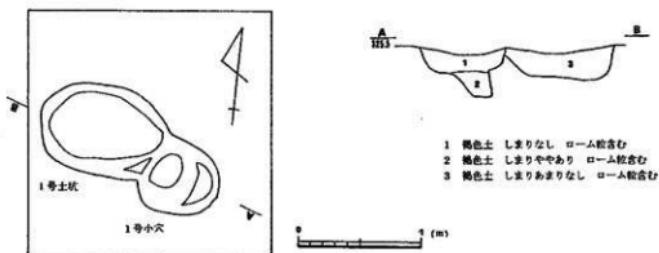
出土遺物は、主に縄文土器の破片が出土している。1は沈線区画内に縄文R、2は縄文地で、口縁部に2段の刺突文列。3は沈線区画内に押引文。1～2は縄文時代中期後半、3は縄文時代中期前半と思われる。

1号小穴

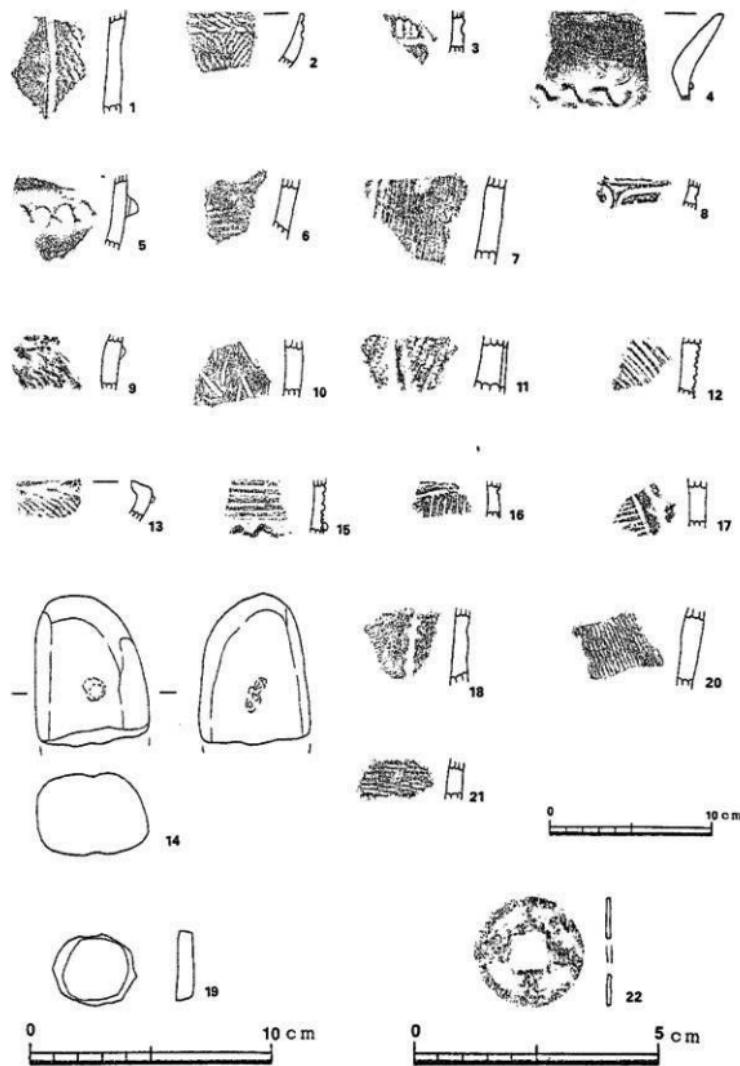
第1区の東側で確認され、ほぼ円形を呈している。東西幅70cm、南北幅60cm、深さ20cmを測る。床面はほぼ平坦で東側にテラス状の段を持つ。覆土は褐色土と暗褐色土の2層である。出土遺物はない。



第19図 土層図



第20図 1号土坑・1号小穴



第21図 出土遺物

遺構外の I 層より縄文時代中期後半の土器破片が出土した。4 は口縁部に蛇行隆線をめぐらす。5 は刻み目を入れた隆線。6 は縄文。7 は条線地に隆線。8 は沈線文。9 は縄文地に隆線。10 はハの字文。

(2) 第 2 区の遺物

遺構外の I 層より縄文時代中期後半の土器破片が出土した。11 は縄文地に隆線。12 は半截竹管による条線。13 は縄文 R L。

(3) 第 3 区の遺物

遺構外の I 層より 14 の凹石が 1 点出土した。現存長 9.3cm、幅 7.0cm、厚さ 5.0cm を測る。安山岩製で両面に窪みが見られる。

(4) 表採遺物

15 は条線地に蛇行隆線。16 は沈線区画内に条線文。17 は条線文。18 は沈線区画内に条線。19 は土製円盤で長さ 2.9cm、幅 3.4cm、厚さ 0.5～0.7cm を測る。外面は無文である。20・21 は須恵器壺の破片で、いずれも色調は灰色、焼成は良好、胎土は緻密。外面は平行タタキメ、内面はナデ調整である。22 は寛永通寶で、腐食が激しく文字が読みづらい。

第 4 節 まとめ

調査の結果、土坑が 1 基、小穴が 1 基が出土した。1 号土坑から縄文土器の破片が数点出土したが、恐らくは混入品と思われ、時期は 1 号小穴とそんなに変わらない時期のものと思われる。今回の調査地より南側に隣接した村道大鳥居線建設に伴う調査の際、中世末のものと思われる土坑・ピット群が出土しており、今回の土坑や小穴もそれらと同時期のものではないかと思われる。

また、遺物としては、耕作土中より縄文時代中期後半の土器が出土し、その他、古墳時代後期の須恵器壺の破片や江戸時代の寛永通寶など各種時代の遺物が表採できた。

第6章 前田遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村大鳥居字前田に所在し、甲府盆地の南側に連なる御坂山塊から舌状に張り出した曾根丘陵の一角である山裾の台地上に立地する。

当遺跡内で中山間地域整備事業による圃場整備事業が計画され、平成14年度より継続して試掘及び一部調査区を拡張した調査を実施した。調査面積は141m²である。

平成15年11月27日 発掘調査を開始

平成15年12月2日 発掘調査を終了

平成15年12月5日 南甲府警察署に遺失物発見届を提出

平成15年12月5日 山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に応じて2×2~16mの試掘坑やトレンチを10か所設定し、それぞれに13~22区と名づけて掘り下げた。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅲ層までの深さは20~50cm前後である。

第Ⅰ層 褐色土（耕作土）

第Ⅱ層 褐色土（V層の土がブロック状に混入）

第Ⅲ層 黄褐色ローム

第Ⅳ層 暗黄褐色ローム

第Ⅴ層 明黄色ローム（いわゆる鹿沼土）



第22図 調査区位置図 (1/2,500)

第3節 検出した遺構と遺物

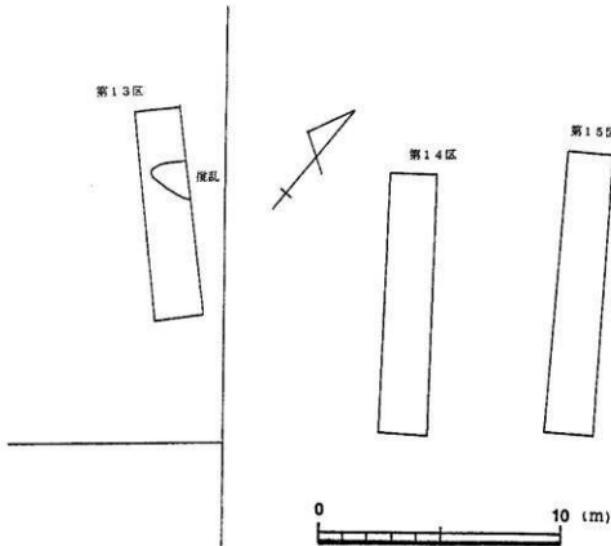
(1) 第18~20区の遺構と遺物

1号溝

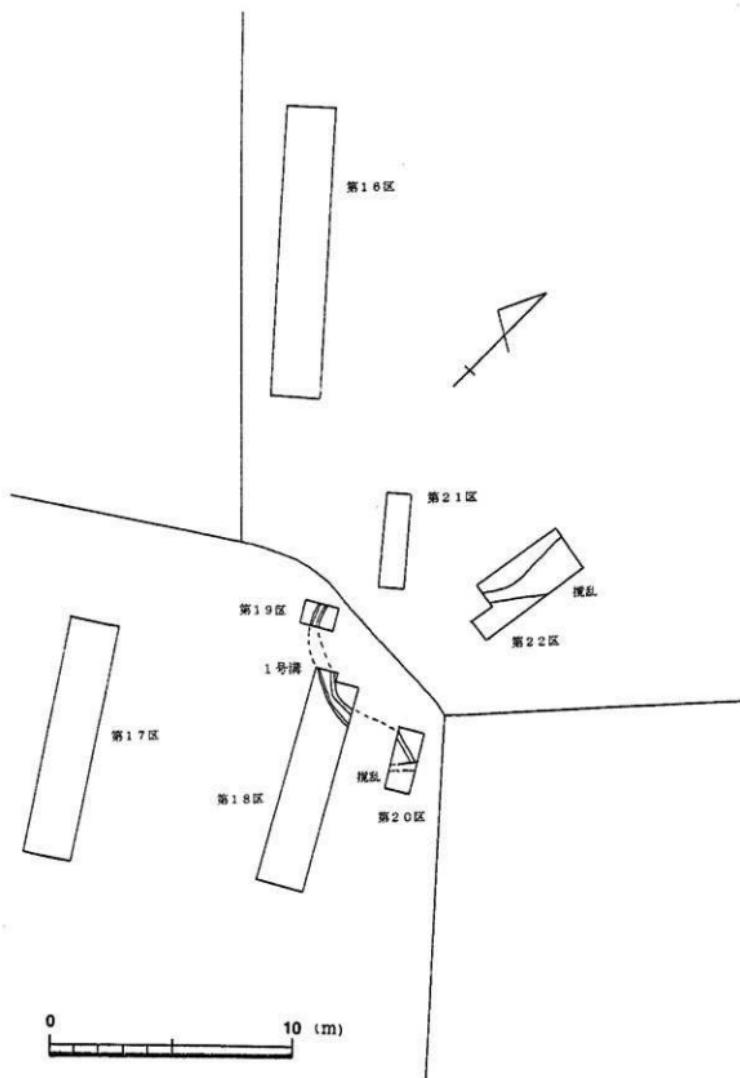
第18~20区にわたり確認され、東西方向に走る溝である。当初、18区で幅35~65cm、深さ15cm前後の溝が確認され、その溝の範囲確認をするため、19区、20区の調査区を設定し、19区では、幅30cm、深さ5cm程度の溝が確認され、20区内では、調査区内の南側にある擾乱で削平を受けている。20区内での溝の幅は不明であるが、深さは20cm程である。溝の範囲を確かめようと21・22区を設定して掘り下げたが確認できず、古墳の北側及び東側では溝は作られなかつたのか、後世の削平を受け、消滅したのかは不明である。覆土は褐色土である。

出土遺物は、18トレンチでの溝の覆土内より須恵器の破片が1点出土した。

本溝は14年度の調査で確認された石室に伴う古墳の周溝と思われる。時期がわかるような副葬品等の出土遺物がないので、年代は不明である。北側の溝が確認できなかつたので詳細な規



第23図 調査区全体図(1)

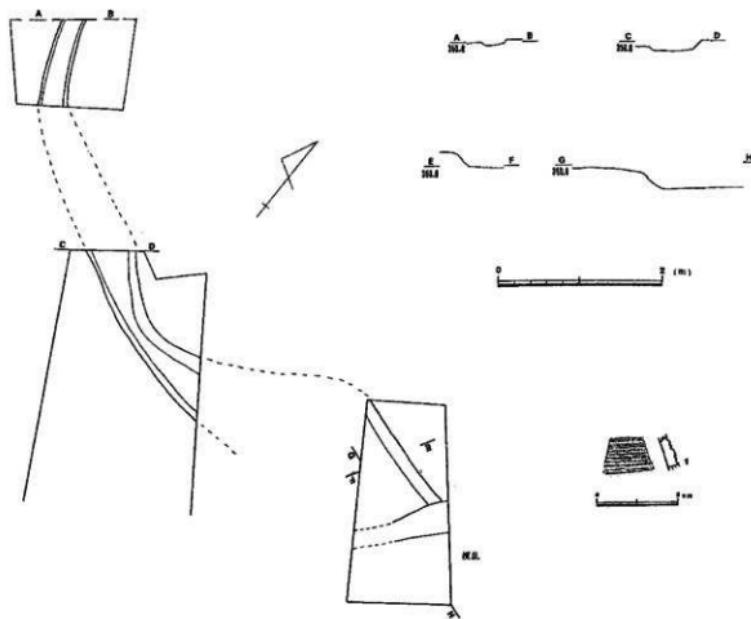


第24図 調査区全体図(2)

模は不明だが、築造当初はおそらく10m前後の円墳で、西側に開口した横穴式石室を主体部とするものだったと思われる。

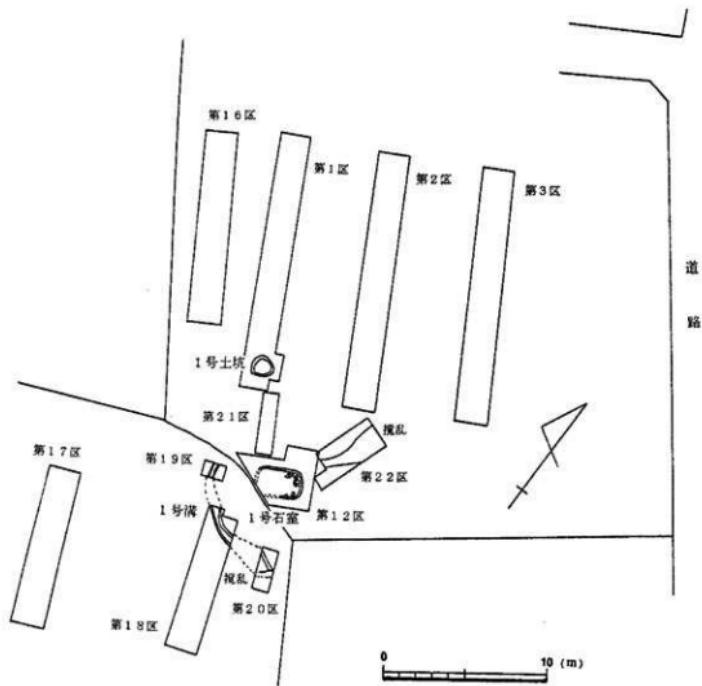
第4節 まとめ

調査の結果、古墳の周溝1条が発見された。この溝は、平成14年度に実施された調査で発見された古墳石室に伴うものと思われる。これらの調査で古墳の全容が解明できるかに思われたが、溝の残存度が悪く、古墳を1周するような形では確認できず、それは溝の一部が残っていたのが確認されたということなのか、それとも北側及び東側で確認することができなかつたので、人々、この部分での周溝の掘削が行われなかつたのかは、不明である。しかしながら、これまで発掘調査を行う機会がなく、包蔵地ではあったものの詳しいデータがなく、考古学的には、さほど注目されるような地域ではなかった大鳥居地区の山裾地域で、古墳が発見されたことの意義は大きく、前出遺跡の北側にある横畠遺跡でも古墳時代後期の土器が出土しているこ



第25図 1号溝

とから、この周辺のどこかで集落が営まわれていたと思われ、古墳時代の豊富村の歴史を語る重要な資料を今回の調査で得た結果となった。



第26図 1号溝・1号石室・1号土坑 (14・15年度)

第7章 熊野原遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

東八代郡豊富村浅利字熊野原に所在し、甲府盆地の南側に連なる御坂山塊から張り出した曾根丘陵の台地上に立地する。

当遺跡内で中山間地域整備事業による圃場整備事業が計画され、試掘調査を実施した。調査面積は164m²である。

- 平成16年2月16日 発掘調査を開始
- 平成16年2月21日 発掘調査を終了
- 平成16年2月26日 南甲府警察署に遺失物発見届を提出
- 平成16年3月15日 山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に応じて2×2~19mのトレンチを6か所設定し、それぞれに1~6区と名づけて掘り下げた。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅱ層までの深さは30~50cm前後である。

なお、第6区付近では、第Ⅱ層のロームは見られなくなり、耕作により削平を受けたものと思われる。

- 第Ⅰ層 棕褐色土（耕作土） 第Ⅱ層 黄褐色ローム（地山）
- 第Ⅲ層 暗褐色土（地山）



第27図 調査区位置図 (1/5,000)

第3節 検出した遺構と遺物

(1) 第3区の遺物

1はI層より出土。色調は橙褐色で、外面は条痕文が施されている。器種は壺か。時期は弥生時代中期前半であろうか。

(2) 第5区の遺構と遺物

1号溝

第5区の中央やや南側で確認され、南北方向に走る溝である。幅120cm前後、深さ60cm。壁面は、南側はほぼ垂直に立ち上がり、北側も急な立ち上がりである。床面は平坦である。覆土は黒色土と暗褐色土の2層である。

出土遺物は、図示できないが、時期不明の土師器底部や土器破片、黒曜石片が各1点ずつ出土した。

2号溝

第5区の中央やや北側で確認され、東西方向に走る溝である。幅115cm、深さ45cm。壁面は、急な立ち上がりを持つ。床面は東側に向かって上がってていく。覆土は黒色土と暗褐色土の2層である。

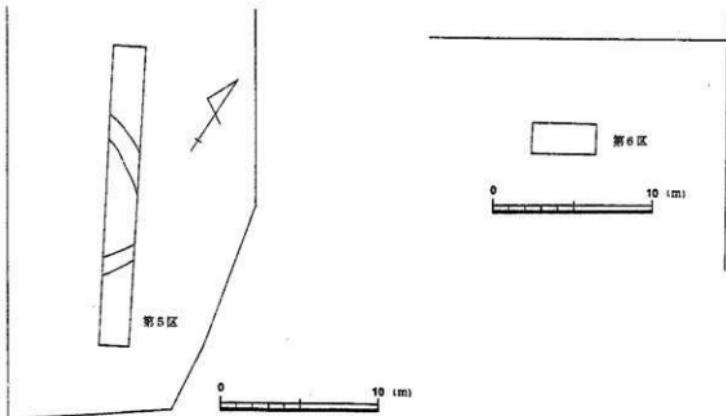
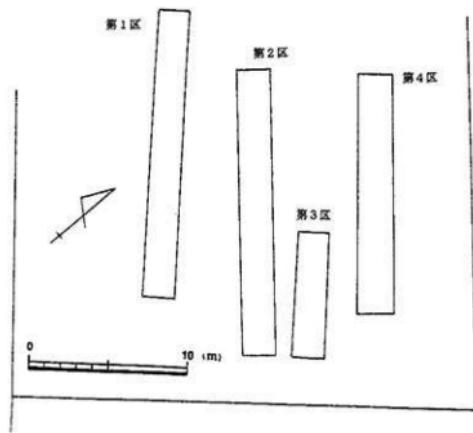
出土遺物は、時期不明の土器破片が1点と黒曜石片が2点出土した。

その他、I層の耕作土中より5×4cm程の黒曜石片が1点出土している。

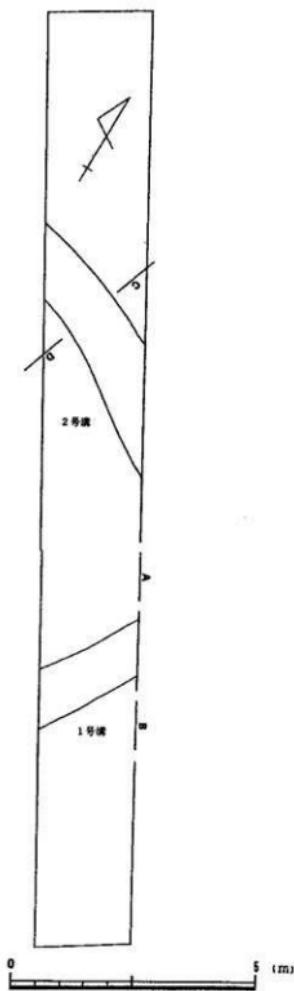
第4節 まとめ

調査の結果、時期不明の溝が2条発見された。2本の溝は、覆土の様相、溝が走る方向等から見て同一遺構と思われ、方形周溝墓または古墳の周溝と思われる。

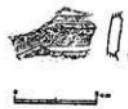
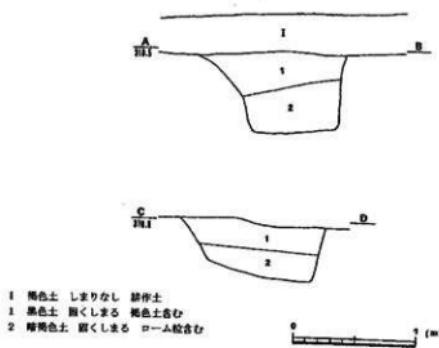
熊野原遺跡の西端は、三珠町との町村境界になるが、三珠町側の境界際には大塚古墳がある。全長約61mの帆立貝式古墳であり、多数の鉄製品を副葬品に持ち、また古墳の周溝などから円筒及び形象埴輪が出土しており、本古墳は、5世紀後半から6世紀初頭の築造とされる。この一帯には大塚古墳を中心としていくつかの古墳が分布しており、北原古墳群と称している。この北原古墳群と熊野原遺跡は、同じ台地の平坦部に立地しており、その範囲は重なる部分が多いのではないかと考えられる。おそらく後世の耕作で削平を受けた古墳もあったに違いなく、今回発見されたこの溝は、時期が不明なために大塚古墳と時期が同一となるかわからないが、いつの時代にか盛土を失った墳墓の周溝と思われる。



第28図 調査区全体図



第29図 1号溝



第30図 出土土器

第8章 原遺跡・東原遺跡の調査

第1節 調査に至る経過

原遺跡は東八代郡豊富村関原字原他、東原遺跡は東八代郡豊富村木原字東原に所在し、いずれも甲府盆地の南側に連なる御坂山塊から張り出した曾根丘陵の台地上に立地する。

両遺跡内で中山間地域整備事業によるスポーツ公園造成事業が計画され、試掘調査を実施した。調査面積は164m²である。

平成16年2月25日 発掘調査を開始

平成16年2月26日 発掘調査を終了

平成16年2月26日 南甲府警察署に遺失物発見届を提出

平成16年3月15日 山梨県教育委員会に発掘報告を提出

第2節 調査方法及び基本層序

調査方法は、調査対象地に応じて2×2~19mのトレンチを6か所設定し、それぞれに1~6区と名づけて掘り下げた。基本層序は次のとおりである。地表から第Ⅱ層までの深さは30~50cm前後である。

なお、第6区付近では、第Ⅱ層のロームは見られなくなり、耕作により削平を受けたものと思われる。

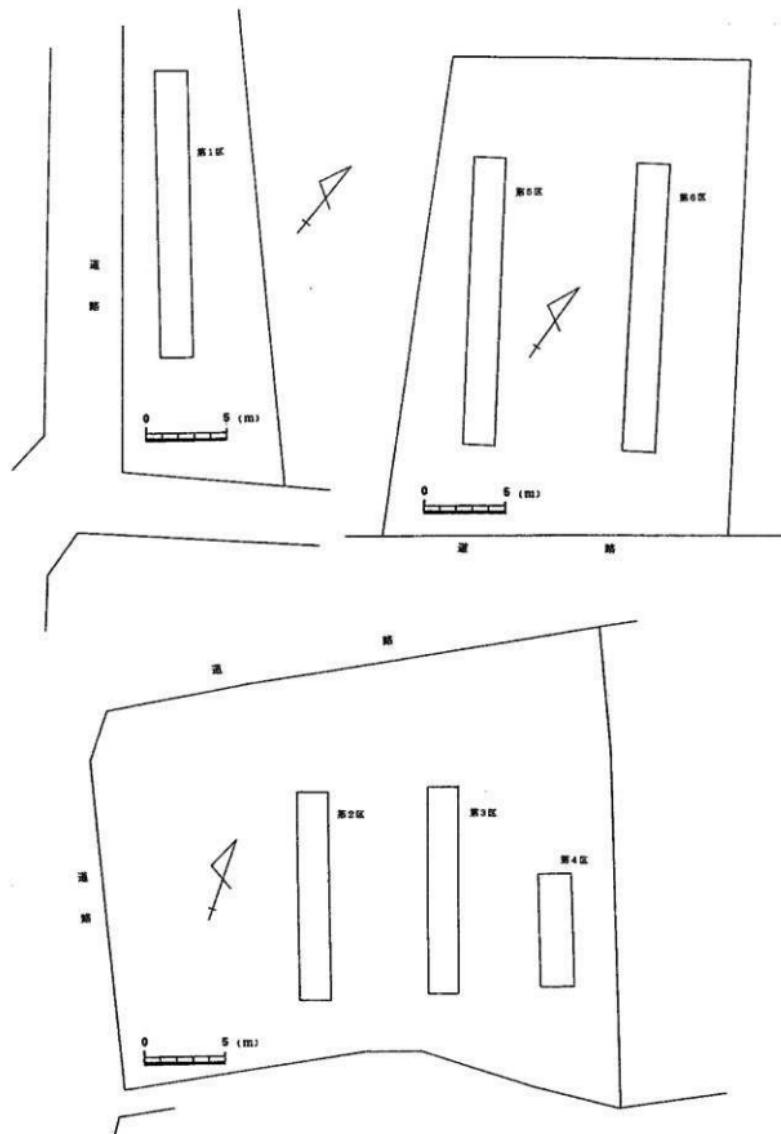
第Ⅰ層 棕褐色土（耕作土）

第Ⅱ層 黄褐色ローム（地山）

第Ⅲ層 暗褐色土（地山）



第31図 調査区位置図 (1/5,000)



第32図 調査区全体図(1)

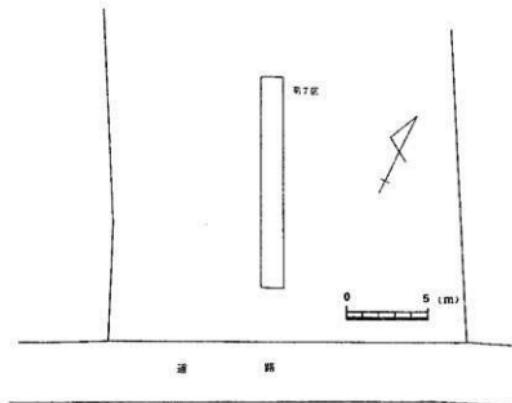
第3節 検出した遺構と遺物

(1) 第5区の遺物

1はI層の耕作土中より出土。縄文時代晚期と思われる土器片で、3本の平行沈線が引かれている。

第4節 まとめ

調査の結果、遺構は発見されず、縄文時代晚期と思われる土器片が1点出土したのみである。



第33図 調査区全体図(2)



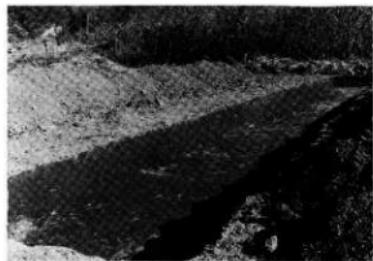
第34図 出土土器



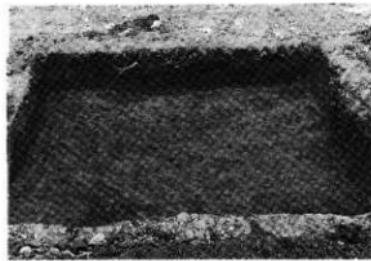
調査前風景(1~3区付近)



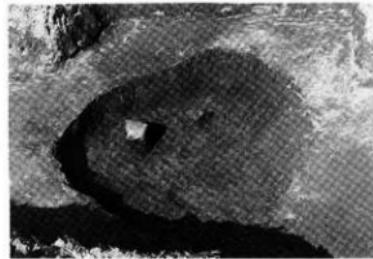
調査前風景(4~11区付近)



2区全 景



6区全 景



1号土 坑



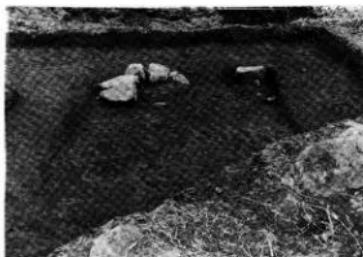
1号石室西壁土層



1号石室管玉出土状況



1号石室(北東から)



1号石室(南西から)



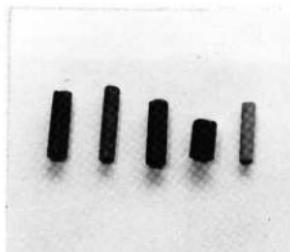
1号石室(西から)



1号土坑出土土器



9区出土土器



1号石室出土管玉

圖版三 高部宇山平遺跡



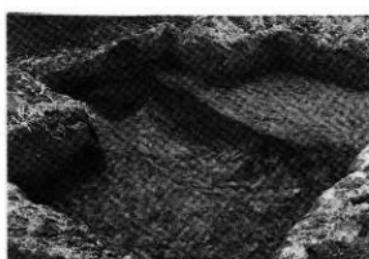
調査前風景



1号溝土器出土状況



1号溝土器出土状況



1号溝



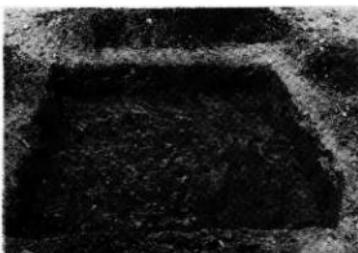
出土土器



出土土器



調査前風景

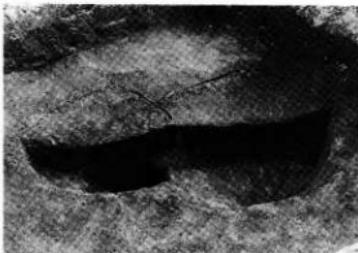


2区全景

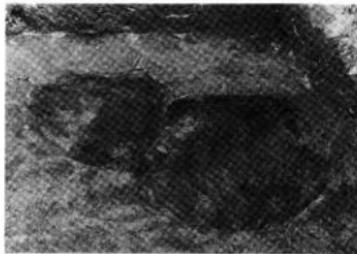
(駒平遺跡)



調査前風景



1号土坑・1号小穴南壁土層



1号土坑・1号小穴



1号土坑出土土器

(横畠遺跡)

図版五 横畠遺跡



1区出土土器



2区出土土器



3区出土石器



調査区付近表探資料



調査前風景(17~20区付近)



調査前風景(13~15区付近)



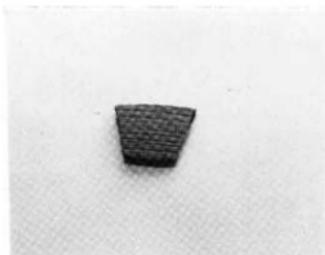
13 区 全 景



19 区 1 号 溝



18 区 1 号 溝



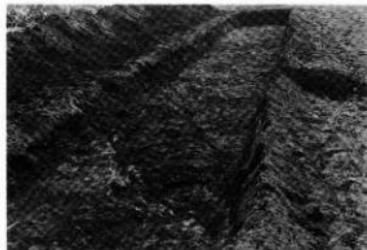
1号溝出土土器



調査前風景(1~4区付近)
(右側の小山は三珠町大塚古墳)



2 区 全 景



1・2号溝確認状況



1号溝土層



2号溝土層



出 土 土 器

圖版八

原遺跡・東原遺跡



調査前風景(2~4区付近)



調査前風景(5~6区付近)



2区全 景



5区全 景



7区全 景



出 土 土 器

報告書抄録

ふりがな	へいせい14・15ねんどそんないいせきはつくつちょうさほうこくしょ
書名	平成14・15年度村内遺跡発掘調査報告書
シリーズ名	豊富村埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第9集
編著者名	岡野秀典
編集機関	豊富村教育委員会
所在地	〒400-1594 山梨県東八代郡豊富村大鳥居3866 TEL 055-269-2447
発行年月日	2004年8月31日

豊富村埋蔵文化財調査報告第9集

平成14・15年度村内遺跡発掘調査報告書

発行日 2004年8月31日

発行所 豊富村教育委員会

〒400-1594 山梨県東八代郡豊富村大鳥居3866

印刷所 株式会社葉袋印刷所

〒400-0043 山梨県甲府市国母2-2-35

